

Yumeken

夢けんせつ
DREAM CONSTRUCTORS

春

2010 Vol.600

- ◆特集○話題の焦点
出会いや発見、感動がいっぱい! 図書館をもっと楽しむ
- ◆夢インタビュー
左官技術の粋を集めた奥深い鏝絵の世界
- ◆行ってみよう
河内の風穴と多賀の自然体験スポット
- ◆おじゃまします
谷庄建設 株式会社



出合いや発見、感動がいっぱい！ 図書館をもっと楽しむ

最近、図書館に行きましたか？

滋賀県には、県立図書館のほか個性豊かな公共図書館が各地に開設されています。所蔵する図書や展示の仕方だけでなく、建物にもそれぞれ工夫が凝らされていて、ゆっくり読書したり、交流を楽しんだりできる場所になっています。

本を借りるだけでなく、楽しい出合いや感動がいっぱいの図書館をレポートしました。

図書館ネットワークの 中枢 滋賀県立図書館



ワンフロアに約30万冊の書籍を収蔵する地下書庫



豊かな自然に囲まれたロケーションも
県立図書館の魅力の1つ

直接貸出業務のほか、ネットワークの中枢として市町立図書館を支援してきた県立図書館では、各市町の図書館から、インターネットや電話、ファックスなどで、リクエストがあった本の協力貸出を行っています。毎週一回、県内の各図書館を訪問する協力車は、リクエストのあった本を届けるだけでなく、司書が同乗して各図書館の職員と情報交換などを行います。また、市町立図書館開設の際の助言や支援、図書館員向けの専門講座なども実施しています。

県立図書館の蔵書数は現在約一二三万冊。全国の図書館の中でもひじょうに蔵書数の多い大型図書館です。例えば、昭和六十三年四月から国内で発刊された児童書（コミックなどは除く）はすべてそろっています。

新刊の購入のほか、市町立図書館で廃棄される図書の中から、県立図書館として保管しておく必要のあるものを受け入れたりして、一年に約二万五〇〇〇冊ずつ蔵書が増えていきます。

平成三年に完成した地下三階建ての書庫は一〇〇万冊収蔵できるもので、ずらりと並んだ書架には整然と書籍が収納されています。すでに半分は埋まっているため、そう遠くない将来に新しい収蔵スペースが必要になることが予想されます。

図書館のある文化ゾーンは豊かな自然に恵まれ、県立近代美術館や埋蔵文化財センター、日本庭園などが整備されていて、県民の憩いの場として親しまれています。

**全国1位、
県民1人当たりの貸出冊数**

昭和五〇年代の初め頃、県内の公立図書館開設率はわずか四%で、当時の滋賀県は図書館後進県でした。

県の図書館振興策で、昭和五年に滋賀会館にあった県立図書館を、大津市瀬田の文化ゾーンに移転、新築することになり、日野市立図書館を立ち上げた前川恒雄さんを県立図書館振興対策委員会の特別委員として招き、

「図書館振興に関する提言」をまとめました。その中には、新しく開設される県立図書館が「市町村図書館をバックアップするネットワークの中枢機能を果たすこと」が盛り込まれました。

また滋賀県では、図書館の建設費や図書購入費の補助を設けて、市町村図書館の充実を図ってきました。新設される図書館の館長として全国から有能な人材を集めたり、専門職の充実を図る取り組みが功を奏して、利用は飛躍的に向上し、全国トップレベルに成長を遂げたのです。

現在、滋賀県には、県立図書館以外に四七の公立図書館が開設されています。県民一人当たりの貸出冊数は、昭和五年の一人当たり〇・五冊から平成二〇年度は九・四冊へと飛躍的に伸びて、平成十四年から全国一位の座を守っています。

本に親しむための催しを企画したり、資料探しなどに職員がきめ細かに対応するなど、県民が利用しやすい図書館にするためのさまざまな取り組みが評価されているからではないでしょうか。



びわ湖ホルルの西側に広がるなぎさ公園「打出の森」に、昨年四月に誕生した「なぎさのテラス」。「天使のカフェ」（カジュアル・レストラン）「ANCHORVY」（イタリア料理）「Chococoa」（スイーツ&カフェ）「なぎさWARMS」（ギャラリーとオーガニックカフェ）の四つのテナントは、大津市の公募によって選ばれた

もの。琵琶湖側には四店舗をつなぐ大きな木製デッキが設けられ、その前の芝生越しに、素晴らしい琵琶湖の眺めを楽しむことができます。

株式会社まちづくり大津が事業主体となり、大津市所有の公有地を活用した「大津市中心市街地活性化基本計画」の先導的な事業として平成二〇年十一月に着工しました。事業の実施にあたっては、経済産業省の平成二〇年度戦略的中心市街地中小商業等活性化支援事業費補助金が申請されました。

以下の項目を事業計画の基本方針として掲げています。

- 1 広域的な集客力をもつ拠点づくり
- 2 琵琶湖を生かす新しい観光まちづくり
- 3 なぎさ公園等周辺と一体となる活性化
- 4 大津らしさを発揮する個性的魅力空間
- 5 「環境・健康・観光」の複合効果

事業にいたる背景には、せつかく湖畔の美しい風景や、公園、遊歩道がありながら、そこへ行ってみたいという動機づけとなる決め手が欠けていたことがあります。そこで、なぎさ公園を含む琵琶湖岸を、より集客魅力のある場所として生かし、くつろぎや心身の癒し、楽しみ、交流、そ



して自然や環境について考える時間を提供するに、商業施設を含む拠点づくりに取り組むことになりました。

オープン以来、琵琶湖の景色を眺めながら、食事やお茶が楽しめるスポットとして話題になり、出合いや交流の場として活用されることが期待されています。

まちづくり大津は、行政と民間が協力して大津市の中心市街地活性化を進めるため、市民にも出資を呼びかけて平成十九年に設立されました。現在、新たなにぎわい拠点づくりとして、旧大津公会堂（社会教育会館）のテナントミックス施設整備事業に取り組んでいます。

場所 ●大津市打出浜十五番地先

なぎさのテラス

新しく便利になった街や施設をレポートするコーナーです。

CONTENTS

湖国街かどウォッチング	2
なぎさのテラス	2
特集・話題の焦点	3
出合いや発見、感動がいっぱい！ 図書館をもっと楽しむ	3
夢インタビュー	6
左官技術の粋を集めた 奥深い鏝絵の世界 津田誠一さん	6
ビジネス最前線	7
HEFL照明で栽培する 機能性野菜「ツブリナ」	7
行ってみよう	8
河内の風穴と 多賀の自然体験スポット	8
おじゃまします	10
谷庄建設 株式会社	10
近江建築探訪	12
彦根地方気象台	12
「仕事の達人・遊びの達人」	13
子どもと過ごす時間を大切に 花澤道春	13
バスル&クイズ	14
見れば納得 見学会報告	14
布引運動公園	14
元気いただきます	16
近江うまいもの紀行	18
湖国の祭りあれこれ	18
読者の声	19
表紙写真	19
「しゅかり受け取ってくれ」古垣 純三	19
「花いっぱい風車村」西山 順二	19
「青土タム」瀬戸口 初男	19
「新緑の並木道」岡本 聖	19
「緑の農道」木下 博貴	19
「初夏の堰堤」井上 先夫	19

愛知川に伝わる伝統工芸のびん細工手まりを常設展示するびんてまりの館と、ピオトープのあるやすぎ公園を併設する愛知川図書館。「小さな町の図書館だからこそ、地域の人々の求める情報を質量ともに充実させたい」「地域住民の憩いの場として、読書の好きな人だけでなく、本にあまり興味のない人でも楽しめるような図書館にしたい」という理念のもとに、一人でも多く、また一回でも多く図書館に足を運んでもらうための工夫を行っています。

企画展やコンサート、ワークショップなどのイベントを開催するほか、パティオ(中庭)には野外ステージが設けられていて、ライブや映画の上映会が開かれることもあります。書籍以外に、新聞の折り込みチラシや地域のタウン情報誌など、暮らしに役立つ情報が網羅されています。

一方通行の発信だけではなく、「お地蔵さんマップ」や「虫マップ」など、住民から寄せられた町内の情報を紹介する取り組みも行っています。残し、伝えていきたい地域の情報をカ-

くらしのなかに図書館を 愛荘町立 愛知川図書館



天気の良い日は
野外読書テラス
がおすすめ



畳コーナーなど、わが
家にいるようにくつろ
いで読書が楽しめる
よう工夫されている。



子ども専用のカウンター

愛知川図書館

愛知郡愛荘町市1673 TEL0749-42-4114
開館時間 10:00~18:00
休館日 月曜、火曜、最終水曜日、祝日、年末年始
<http://www.town.aisho.shiga.jp/lib/index.html>

ドに記入して保管する「まちのししカード」や各家に残っている昔の町内の様子などを撮影した古い写真を収集・整理して保存する「愛知川歴史写真館」として、愛知川の自然や風景、生活の記録をデジタル化して保管する事業にも取り組んでいます。

そういった地域に密着した取り組みが評価されて、平成十九年にIRI(NPO法人知的資源イニシアティブ)主催の「Library of the Year 2007」大賞を受賞しました。

成人開架室は、仕切りのあるコーナーがたくさん設けられていて、自分の部屋にいるように落ち着いて読書を楽しむことができます。また、野外読書テラスでは気持ちのいい太陽の下で本を読むことができます。独自の分類で、キーワードに関連する書籍を、ジャンルを超えて集めたコーナーが設けられています。

小さな子ども連れでも気兼ねなく利用できるよう児童開架室が分かれていて、子ども専用のカウンターが設けられているのも特徴です。

戦前に発行された雑誌なども
保管されている



児童書などを収蔵するもう1つの書庫

文化の日開催されるイベント「文化ゾーン探検隊」では、普段入ることのできない書庫を公開したり、江戸時代の国絵図などの貴重な資料が展示公開されるとあって、毎年大勢の参加者でにぎわいます。また夏休みの「文化ゾーン子ども探検隊」でも書庫が公開されます。

滋賀県立図書館

大津市瀬田南大萱町1740-1 TEL077-548-9691
開館時間 水~金10:00~18:00
土・日・祝10:00~17:00
休館日 月曜日・火曜日
(祝日の場合開館し、その週の水曜日が休館)、
祝日の翌日(土・日の場合開館)、年末年始
<http://www.shiga-pref-library.jp/>

明るく開放的な開架室 野洲図書館 まちづくり協働推進センター



柱のない明るく開放的な一般開架

深い軒が夏の日射しをさえぎる



大きなトブライトを設けた共用空間



野洲図書館

野洲市辻町410 TEL077-586-0218
開館時間 火~金:10:00~20:00 土・日:10:00~18:00
休館日 月曜、第1木曜、祝日
<http://www.library.hohoemi-yasu.jp/>

日本一の木造図書館 東近江市立 湖東図書館



麗しの滋賀建築賞などを受賞した湖東図書館



トブライトから自然光を取り入れた開架室

湖東町出身の映画監督沢島忠さんゆかりのコーナー



東近江市立湖東図書館

東近江市横溝町1967番地 TEL0749-45-2300
開館時間 10:00~18:00(木曜は20:00まで)
<http://www.library.higashiomi.shiga.jp/>

平成五年に開館した湖東町立図書館(現 東近江市立湖東図書館)。「ふるさと創生一億円事業」の使い道を問う住民投票で「図書館建設」の要望が高かったことから、建設計画がスタートしました。それまで、湖東町では県立図書館の移動図書館と、公民館に開設された草の根文庫が、町民のニーズに応えていました。

床面積は一七〇〇㎡、木とコンクリートの混構造で平屋建て、燻し瓦屋根に漆喰仕上げの壁という和風建築。図書館は建築基準法で特殊建築物となつているため、木造にするためには種々の制限がありますが、木造とRCの混構造にすることで、木の持つぬくもりを生かした建物になっています。

周辺の景観に調和したデザインが高く評価され、麗しの滋賀建築賞や図書館協会建築賞、優良木造表彰施設などに輝きました。

人口一万人未満の農村地帯で、どれくらい利用があるのかと心配する声もありましたが、開館当初から利用率の高い図書館として全国的にも注目を集めてきました。

開架室は、大きな切妻屋根のトップに採光用の天窗が設けられていて、室内に自然光が射し込むようになっています。明るい大空間にテーブルやイスがゆったりと置かれていて、思い思いに読書ができるように工夫されています。

湖東図書館は、湖東出身の映画監督沢島忠さんゆかりの資料などを集めた「沢島文庫」のほか、芸術関係の書籍、視聴覚資料やDVDが充実しています。また地域のニーズに答えて農業関連の本や資料の収集にも力を入れています。

平成十七年と十八年に、八日市市、永源寺町、五個荘町、愛東町、湖東町、能登川町、蒲生町が合併した現在の東近江市では、七つの市立図書館がそれぞれに地域性や独自性を打ち出す図書館づくりに取り組んでいます。

地域の情報や知的な刺激がいっぱい詰まった図書館を、もっと身近なものにするので暮らしたいものです。

約一六六〇〇㎡のゆったりとした敷地に建つ約三五〇〇㎡の建物の中には、野洲図書館のほか、ギャラリー、会議室、ホールなどからなるまちづくり協働推進センターが併設されています。

扇形の開架室は柱のない吹抜け構造で、天窗から自然光が射し込んで、とても明るく開放的な空間になっています。背の低い書架が放射線状に配置されていて、扇の要の部分にある貸出カウンターから室内を見通すことができるため、手助けが必要な利用者が見えたら、すぐにサポートできるようになっています。

ピオトープのある芝生広場に面した窓に沿って設けられたカウンターで、外の緑を眺めながら本を読んだり、天気の良い日は屋外のテーブルで読書を楽しむこともできます。

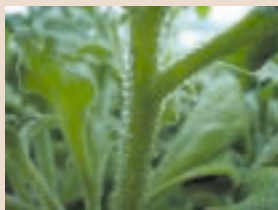
建物の特徴は徹底したバリアフリーと、省エネに配慮した点にあります。書庫の屋根は、設置された約七〇KWの太陽光発電装置は、館内で使用する全電力の1割をまかなうことができます。また、建物の地下に設けられた水槽に溜めた雨水を、ろ過してトイレの洗浄水や植栽への散水などに利用することで、上水道の使用量をかなり抑えています。

トブライトを設けて自然光を取り入れているほか、軒を深くして真夏の直射日光を遮ったり、断熱性能を高める工法や資材を用いて、熱効率を高めていることも特徴です。夏期は熱気を強制排気し、冬期は床下空調に循環させて利用しています。また、建物周辺の舗装には、下水汚泥をリサイクルした透水性舗装材が使用されています。

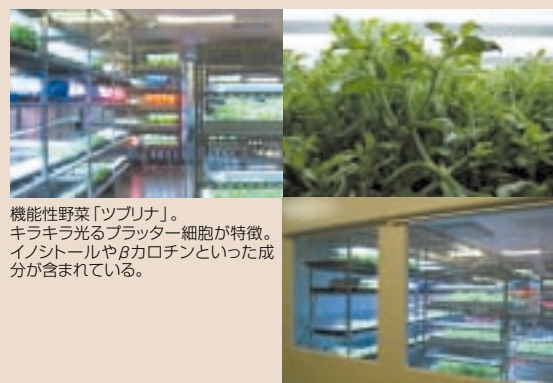
書庫は天井高が八mあり、将来、蔵書数が増えた時には二階を増設できるようにしています。普段、目にするのではない書庫では、たくさんの職員の方が、蔵書の整理や傷んだ本の修理、市内の小学校に教材として貸し出す本をそろえたりしています。郷土資料については、書名や著者名だけでなく、中の項目から検索できるように、現在データベース作りも進められています。

守山市、栗東市、草津市と結んだ湖南広域協定で、相互に貸出利用ができるようになっていて、土日には一日二二〇〇〜三〇〇人の利用があります。

HEFL照明で栽培する 機能性野菜「ツブリナ」



日本アドバンスアグリ株式会社
長浜市田村町1281-8
http://www.adv-agri.co.jp/



機能性野菜「ツブリナ」。
キラキラ光るプラッター細胞が特徴。
イノシトールやβカロテンといった成分が含まれている。

第四世代の農業として近年、注目を集めている植物工場。衛生的な室内で計画生産することで、安全な野菜を安定して供給できることが大きな特徴です。

昭和三十八年の創業以来、照明器具の製造や電子部品加工を手がけてきたツジコー株式会社が、新規ビジネスに参入したのは平成十七年のこと。安価な中国製や台湾製の製品にシェアを奪われ、大型液晶パネルのバックライト技術を応用して開発した照明装置「HEFL（ハイブリッド電極蛍光ランプ）」を用いた野菜育成装置の開発に取り組んだことがきっかけとなりました。

平成十八年に、長浜市のバイオインキュベーションセンターに日本アドバンスアグリを設立、滋賀県産業支援プラザの事業可能性評価「めきさ・しが」でAランク事業に承認され、レタスの生産販売をスタートさせました。県内の小売店への販路を開拓したものの、農業を一切使わず、ポリフェノールやカロテンが通常の二倍以上あることをアピールしても、価格では路地物より割高になるため、市場からの撤退を余儀なくされることに。既存農作物との差別化、付加価値の追求が不可欠だと考えた辻昭久社長が、事業の見直しを模索していた時に出会ったのが、南アフリカ原産の野菜「アイスプラント」でした。

アイスプラントは、葉や茎についた水滴のような粒が口の中でプチプチとはじける食感がめずらしく、佐賀県のブランド野菜「バラフ」「プチーナ」として売り出されて話題になり、その他にも全国各地でブランド野菜として生産されています。

「キラキラしたツブツブとシャキシャキした食感に驚き、その魅力に感動して、これならブランド



日野町にある実験室。波長や養液を変えて生育実験を行っている。

クリーンな工場内で計画生産される。



「ものを売ることが難しい時代だけれど、知恵を借りながら、恵を借りながら、付加価値の高い製品造りで活路を開きたい。そして、農業を夢の持てる職業にしていきたい」と、辻社長は新しいビジネスへの抱負でインタビューを締めくくりました。

「ものを売ることが難しい時代だけれど、知恵を借りながら、恵を借りながら、付加価値の高い製品造りで活路を開きたい。そして、農業を夢の持てる職業にしていきたい」と、辻社長は新しいビジネスへの抱負でインタビューを締めくくりました。

「ものを売ることが難しい時代だけれど、知恵を借りながら、恵を借りながら、付加価値の高い製品造りで活路を開きたい。そして、農業を夢の持てる職業にしていきたい」と、辻社長は新しいビジネスへの抱負でインタビューを締めくくりました。

「ものを売ることが難しい時代だけれど、知恵を借りながら、恵を借りながら、付加価値の高い製品造りで活路を開きたい。そして、農業を夢の持てる職業にしていきたい」と、辻社長は新しいビジネスへの抱負でインタビューを締めくくりました。

左官技術の粋を集めた 奥深い鍍絵の世界

鍍絵とは、左官職人が鍍を使って民家や土蔵の壁に描く漆喰細工で、江戸末期から明治にかけて盛んに作られました。身近な花や動物から空想上の生き物まで、題材はさまざま。

この一月に大津市坂本の公人屋敷で鍍絵の個展を開いた、一級左官技能士の津田誠一さんにお話をうかがいました。

●この仕事を始められたのは、お父さんが左官業をされていたからですか。

父の代からの左官業で、中学校を卒業した後、父に勧められて大津で五年間左官の修業をしました。見習いに行ってみたら、嫌いではなかった



天女を描いた大作

んです。小さい時からおもちゃ変わりに、道具をさわったりしていたこともあったと思います。

●その頃は左官屋さんの需要も多かったのですか。

仕事を始めた頃は、普通の住宅でも漆喰壁が一般的でしたし、蔵の塗り替えとか仕事がたくさんありました。父の仕事を手伝いながら、あちこちの現場に手伝いに行っていたのを覚えています。

●左官職人さんの仕事もずいぶん様変わりしたように思いますが。

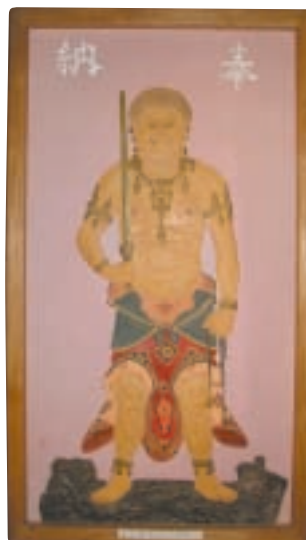
今は材料も建材屋で買ってきますが、昔は土に石灰などを入れて練って、糊も自分で炊いて作っていました。昔ながらの壁をする時は、縄を編んで下地にするのですが、その縄も自分で作っていました。台所に縄を造ったりタイルを貼って流しをこしらえるのも左官の仕事でしたが、今、家業を継いでいる息子に造り方を教えたことも、電やタイルの流しを作る家はまずありません。

●鍍絵を始められたきっかけは？

昔から年配の職人さんが器用に鍍を使って、蔵の妻飾りに家紋や文字を描いたり、洋間の天井に漆喰飾りを造ったりしておられるのを目にしていた。静岡を旅行した折に、伊豆の長八という江戸時代の名人の鍍絵に出会って感銘を受け、鍍絵職人の山本堪一さんの指導を受けたこともあります。

遊び心でまねをして描いてみましたが、本格的に作品づくりをするようになったのは六〇歳を過ぎたからです。事故で頸椎を傷めて、リハビリの代わりにも鍍絵の作品を描くようになりまし。道具も自分で工夫して、細かいところを描くための小さな鍍などを手作りしました。

●思い出しに残っている作品はありますか。



明王院に奉納された不動明王

葛川の明王院の修復の仕事させてもらった時に、お礼に不動明王を描いて寄贈したところ、本殿に飾っていただくようになりまし。

●今後、描いてみたい題材はありますか。

竜虎とか高松塚古墳の壁画をテーマに大作にチャレンジしてみたいと思います。

●数年前から、若い左官職人さんたちの指導にもあたっていらっしゃるのですか。

文部科学省から認定を受けた全国文化財壁技術保存会の理事として、全国から希望者を募って昔ながらの左官技術の指導に取り組んでいます。荒壁下地や木舞掻き、土練りなど、文化財の修復に必要な技術を基礎から身につけてもらうことが目的です。

また、広報活動の一環として、子どもたちに漆喰塗りや鍍絵を体験してもらおうイベントなども行っています。

●どんなに便利になっても、伝統の技術を絶やしたくないわけですか。

時代は変わっても、左官の仕事を手につけるやり方は今も昔も同じだし、道具も同じです。手を添えて教えることはできませんので、自分で工夫しながら覚えていくもんです。もちろん器用、不器用はありますが、それより素直さが大切だと思います。

●津田さんと比べると、もっとうまの仕事を楽にこなしたい人ってたくさんいるんじゃないですか。

三井寺や延暦寺など文化財の古い壁の修復を



細か髪髷を描くための津田さんが手づくりした道具もある。



個展会場には左官材料も展示されていた

させてもらったことは幸せなことだと思っております。

反面、何年やってもこれで完璧ということはないです。一つ仕事が終わると、もつと利口なやり方があるんじゃないか、もつとええもんができてくれないかと考えます。いつまでも上を追い求めていくと、それがまたがんばっていい仕事をしようという原動力になるのだと思います。

津田 誠一さん

〇つだせいいち
一級左官技能士

昭和8年大津市生まれ。一級左官技能士。一般住宅のほか三井寺、延暦寺などの文化財の修復工事でも多く手がける。現在、全国文化財壁技術保存会の理事として、また職業訓練指導員として後進の指導にあたっている。



立ち寄りスポット

多賀町立博物館

多賀町とその周辺の自然や人々の文化をテーマにした総合博物館。エントランスホールでは、1993年に多賀町四手で発見された約180万年前のアケボノゾウの全身骨格化石の複製や生体復元模型を迎えられます。また、館内には実物の全身骨格化石が展示されています。

そのほか、鍾乳洞などを含むカルスト地形やそこに住む生き物を紹介するコーナーや、多賀町の自然を再現したジオラマ、芹川で発見されたナウマンゾウの化石などの展示コーナーもあります。

博物館のある「あけぼのパーク多賀」には図書館や文化財センターも併設されています。

■滋賀県犬上郡多賀町四手976-2 TEL0749-48-2077

9:30~17:00
休館日/月曜、祝日の翌日
入館料=大人200円、
中学生以下無料
<http://museum.tagatown.jp/>



アケボノゾウ全身骨格化石(複製)が展示されたエントランス

多賀町の自然を再現したジオラマ

芹川ダム・野鳥の森

灌漑(かんがい)用ダム「芹川ダム」の周囲を一周する約3.5キロの散策路と、その周辺の森林を含む397ヘクタールが鳥獣保護区に指定されていて、シジュウカラ、カイツブリ、キジなど、70種を超える鳥が棲息しています。

1年中バードウォッチングや自然観察が楽しめるほか、桜や紅葉のシーズンにはハイキングもおすすです。

■滋賀県犬上郡多賀町一円

問い合わせ 多賀町観光協会
滋賀県犬上郡多賀町多賀389-1
TEL:0749-48-1553



ダム湖の周辺に約3.5キロの探鳥路が整備されている。

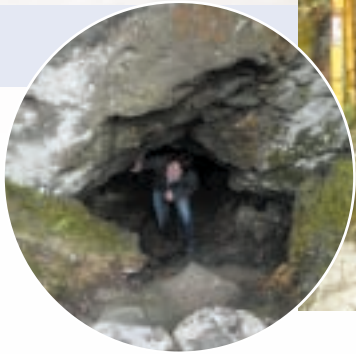
急なはしを登るともう一つの空間が現れる



風穴内から見た出入口



● 滋賀県犬上郡多賀町河内宮前
● 9:00~16:00(夏期は9:00~18:00)
● 大人500円、小人(5歳~小学生)400円
● 問い合わせ 河内風穴観光協会
● TEL0749-48-0552



が発見されていますが、いまだにその全貌は明らかにされていない神秘的洞窟です。その昔、洞窟内に犬を放したところ、鈴鹿山脈の向こう側の伊勢国(現在の三重県)に出てきたという言い伝えがあるそうです。

大ホール奥にある急なはしを登るともう一つの空間へ進みます。観光用に開放されているのは入口から二〇〇メートルまで、残念ながら、そこから先へは柵が設けられて入れないようにになっています。険しい岩場や迷路のような通路がたくさんあり、許可を取って調査などを行う人しか立ち入れないことになっています。

風穴内には、キクガシラコウモリやユビナガコウモリなど、多数のコウモリが生息しているほか、太陽の光がまったく入らない暗闇の中でも、ヤスデやヨコエビなどの貴重な生物が生息しています。

洞窟内部の温度は一年を通じて十一~十二度、湿度は九〇%以上ととても高く、地面から湧き出す地下水などで滑りやすくなっているため、歩きやすく汚れてもいい服装で出かけることをおすすめします。

DVD「神秘的鍾乳洞 河内の風穴」
特別な装備がなければ入ることのできない河内の風穴の奥深くの様子がハイビジョン映像で撮影されたDVD。鍾乳石が林立する「森の間」、幻想的な地底湖や青く透明な地底の水路、風穴内の生き物の姿などが、美しい映像で紹介されています。

本編約48分 2008年度作品 3000円
*河内の風穴管理事務所、多賀町立博物館で販売



高さ約20メートル、幅約20メートル、奥行き約60メートルの大空間

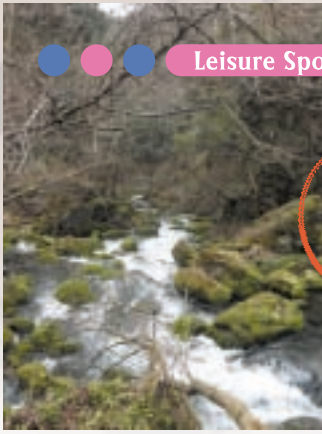
Leisure Spot ● SHIGA

行ってみよう

多賀町散策

河内の風穴と多賀の自然体験スポット

「お多賀さん」で有名な多賀町には、鈴鹿山系に連なる山々や、芹川と天上川の清流に恵まれた豊かな自然を生かしたレジャースポットが点在しています。今回は関西最大の鍾乳洞「河内の風穴」と周辺のスポットをご紹介します。



苔の緑と清流の対比が美しい壬ガ谷



入り口にある河内八幡神社



神秘的鍾乳洞で探検気分を満喫 河内の風穴

国道三〇六号線から、県道十七号多賀醒井線を二〇分ほど走ると、河内の集落に到着します。河内八幡神社の横から、小道を通って風穴の入り口まで続く小道は、樹々の緑に包まれ、また壬ガ谷と呼ばれる美しい渓流の眺めを楽しむことができます。透き通るように美しい水は風穴の地下水脈があふれ出したもの。苔むした岩とのコントラストが美しく、格好の撮影スポット、この流れは芹川に注いでいます。

斜面を登ると、切り立った崖の前に出ます。大人一人がかがんで入れるくらいの穴が岩の下に開いていて、恐る恐るの中に入ると暗い入り口を少し進むと、外からは想像できないような大空間が目前に現れます。この大広間(観光洞大ホール)は河内の風穴の中では一番目に大きな空間で、高さ約二〇メートル、幅約二〇メートル、奥行き約六〇メートル。

河内の風穴は、霊仙山塊(りょうせんさんかい)カルスト地帯にある石灰岩の鍾乳洞で、県の天然記念物に指定されています。最も新しい調査によると総延長は約六八〇メートルで全国で四番目、関西最大の規模を誇ります。

洞窟は三層構造で小洞が複雑につながっていて、地底河川や地底湖、入り口のホールよりさらに大きな空間が発見されていますが、いまだにその全貌は明らかにされていない神秘的洞窟です。その昔、洞窟内に犬を放したところ、鈴鹿山脈の向こう側の伊勢国(現在の三重県)に出てきたという言い伝えがあるそうです。

環境に優しい地盤改良技術で 新事業を展開

谷庄建設株式会社 彦根市古沢町



本社

天然砕石だけで軟弱地盤を改良するHYSPEED工法

昭和二十九年創業の谷庄建設株式会社。造成工事や舗装、管工事などを得意としてきた同社は、滋賀県立大学の敷地造成工事など地元を中心とした公共工事等で数多くの実績を積み重ねてきました。

二年前からは、「HYSPEED工法（天然砕石パイル工法）」という一般住宅向けの地盤改良工事を新規事業としてスタートさせました。これはハイアス・アンド・カンパニー株式会社が開発した技術で、天然砕石だけを使って、軟弱な地盤の改良を行う工法です。「会社に送られてきたファックスを見て興味を引かれました。環境保全型の工法であるということが決め手になりました」と谷庄朗専務。

HYSPEED工法は、地盤に孔を掘り、そこに砕石を詰め込んで空気で圧密し、締め固めながら石柱を形成するというもので、硬化剤などを一切使用しないため、土壌が汚染されたり、コンクリートや鉄パイプなどの埋設物が残る心配がないうえ、将来、土地を再利用する時に撤去費用がかからないことも大きなメリットです。

知恵、工夫、情熱、努力で 厳しい時代の生き残りを目指す

同社ではHYSPEED工法の導入を機に、「みんなで止めよう温暖化 チームマイナス6%」に参加、社内の省エネに取り組んできました。また、淡海エコフオスター制度に参画して、月一回、全体ミーティングの日に本社前の県道を全社員で清掃しています。

社員間の親睦を深めるため、滋賀県建設会野球大会に四年連続で出場している同社。「社内だけではメンバーが足りないの、知り合い

リンドバ。

セメントを使って地盤改良すると、有害な「六価クロム」が発生する危険性を伴いますが、天然砕石を使うので環境汚染の心配がないうえ、セメントや鋼管のように製造時にCO₂を発生する心配がありません。

また、セメントや鉄パイプのように劣化する心配がないことや、地震で発生する液状化現象に強く、地下水の多い地盤やセメントの固まらない腐植土の地盤にも施工できるほか、水を通すので水脈を切断する心配もないなど、既存の地盤改良のさまざまな問題を解決する工法として注目を集めています。

「従来の改良工事より費用が安く、十年工事保証があること、また将来の建て替えの際も同程度の住宅であればくり返し使えるなど、ユーザーにとってメリットが大きいことをアピールして、販路を広げていきたい」と谷庄専務。同社では地元工務店などと連携して、HYSPEED工法のPR、販売促進を展開しています。依頼を受けると地盤調査を行って、地盤の性質や強度に合わせて作成された砕石パイルの配置図に基づいて、改良工事を施工しています。

に助っ人を頼んで参加してきました。みんなで楽しめて、全社員が心を一つにできる良い機会だと思っています」と谷庄専務。

そして、社員のCPD研修会への参加、舗装施工管理技師や土木施工管理技師などの資格取得などにも積極的に取り組むなど、厳しい時代を生き残りていくために、少数精鋭で質の高い仕事を行える企業体質づくりに取り組んでいます。

「知恵、工夫、情熱、努力」をモットーに、「お客様に満足いただけるものを提供する」とともに「お客様への感謝の心と信頼を大切にしながら地域社会に貢献する」ことが何より大切であるといふ谷庄社長へのメッセージにも、その理念が反映されています。



シールドマシン



HySpeed工法では、地面の孔に砕石を圧密しながら埋め込んでいく。



Hy Speed工法担当の松本篤さん



英国認証機関認定審議(UKAS)の認定した審査登録機関(BVQI)による、品質管理システムの認証を取得している。



006



淡海エコフオスターに参加して月1度清掃活動を行っている。



滋賀県建設会野球大会に出場した同社のチーム



施工例「庄堺橋」(犬上川)



施工例「犬上川橋」



施工例「滋賀県立大学造成工事」

彦根地方気象台

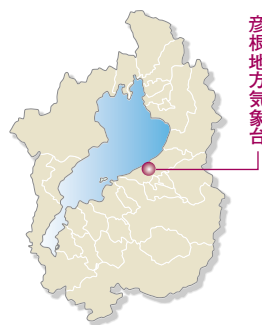
●彦根市城町

人々の暮らしを見守る塔屋

JR彦根駅から琵琶湖方面へ。国宝・彦根城にもほど近い大通りからいくつ角を曲がると、突如静かな住宅街のなかに高低さまざまな木々を従えた趣ある建物が姿を現します。

滋賀県に住む人ならニュース番組などで「も耳なじみの深い」彦根地方気象台。周囲に植えられた樹木は季節観測を行うための標本木です。ここでは県内の天気予報、警報・注意報・地震情報といった防災気象情報などを発信し、気象観測や自然災害の防止、交通安全の確保など、県民生活の安全と利便性の向上に大きな役割を担っています。

彦根に気象の観測所が置かれたのは明治二六年（一八九三年）。このときは県立の側候所であり、現在使われている建物は昭和七年（一九三二年）に建てられたも



のです。

風の観測などのために高い場所が必要なので、建物は中央に四階建ての塔屋を設けた鉄筋コンクリート造二階建て。設計したのは滋賀県の宮繕課だったといわれています。

昭和十五年（一九四〇年）に国立となり、戦後の昭和三十年（一九五七年）に地方気象台へと昇格しました。

階段を上れば 遠く見渡す湖面のさざなみ

塔の内部は一階から屋上までを貫く階段になっており、らせん状にぐるりと上がっていく木製の手すりの美しさは、この建物の大きな特徴になっています。

手すりの親柱には幾何学模様

中央にそびえる塔が特徴の彦根地方気象台は昭和7年(1932年)に建てられた



城の天守を望み、遠くには伊吹山、そしてさざなみ立つ琵琶湖の湖面までが見渡せます。「静止気象衛星ひまわり」からの情報や、地域気象観測システム「アメダス」などが発達した現在も、毎日職員がこの塔の上に出て風雨を観測し、湖面の波の高さを見て、業務の参考にしています。観測の積み重ねは貴重なデータとして役立っています。

建設から八〇年近く経ついまも、塔は私たちの暮らしを守り続けているのです。

- 写真右から
- ① しゃっくり壁に腰板、タイル張りの廊下
 - ② 塔の部分には一階から屋上まで貫く階段が設けられている
 - ③ 幾何学模様で飾られた階段手すりの親柱
 - ④ 階段を上りきると、天井の美しい装飾が見える
 - ⑤ 琵琶湖の湖面や遠く伊吹山を望む屋上



【彦根地方気象台】 JR彦根駅下車、湖国バス「彦根県立大学線」または「彦根市立病院線（北系等）」にて「長曾根口」下車、徒歩約2分 滋賀県彦根市城町2丁目5-25 TEL.0749-23-2582（内部非公開）

仕事の達人、遊びの達人 私のオフタイム

子どもと過ごす時間を大切に

株式会社コクホウ 花澤 道春



打ち出の小槌を振る花澤さん



オオクワガタ

何か一つのこと打ち込んでいくという訳ではありませんが、いろいろな興味をもっていることはあります。ゴルフや釣りなどスポーツもするし、家族でアウトドアも楽しむし、本を読むのも大好きです。

ここ数年は、子どもといっしょにプラモデルを作ったり、ラジコンで遊んだり、フィギュアを集めたりしています。また、一昨年からおオクワガタを飼っています。何組かのつがいから生まれた卵を育てて成虫にするのですが、

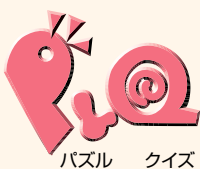
七センチを超えようという大きなものも交えて、去年は二十五匹のクワガタが育ちました。世話が結構たいへんなのですが、子どもはもちろんです。子どもも友達も大喜びしてくれました。励みになりました。読書はジャンル



事務所内の神棚には縁起物がズラリと並べられている

今は特定の趣味に打ち込むことより、なにか地元の役に立つこと、地域が元気になるようなことに取り組みたい、例えば長浜青年会議所の活動などに力を入れていきたいと思っています。

そして、もっと歳をとってから、本当に自分のやりたいこと、趣味として打ち込めることを見つけていきたいと思います。



クイズ

次の文章の「」内に正しい数字を□の中から選んで入れてください。最後に1つ残る数字は？

話題の焦点

- 現在、東近江市には「」の公立図書館があります。
- 滋賀県立図書館は昭和「」年に文化ゾーンに移転新築しました。
- 平成20年度の滋賀県の県民1人当たりの貸出冊数は「」冊です。
- 滋賀県立図書館の蔵書数は現在約「」万冊です。
- 野洲図書館の書庫の屋根には「」kwの太陽光発電装置が設置されています。
- 滋賀県内には、現在「」の公立図書館が開設されています。
- 愛知川図書館は平成「」年に「Library of the Year」大賞を受賞しました。

7 8 9.4
19 47 55
70 123

見れば納得

見学会報告

東近江市今堀町と芝原町の丘陵地に広がる布引運動公園では、国土交通省都市地域整備局所管国庫補助事業として、陸上競技場、多目的広場、芝生広場などの整備工事が行われています。
滋賀県建設業協会広報委員会のメンバーが、災害時の地域防災拠点としての機能も備えた運動公園の建設現場を見学しました。

まず最初に、布引運動公園整備事業の概要について、東近江市都市整備部都市整備課の野田久雄さんから、説明していただきました。

この事業は昭和六十年に計画決定し、平成三年に体育館、平成五年に屋内プール、平成十一年に弓道場・ゲートボール場・多目的広場が完成、市民のスポーツ活動やレクリエーションの拠点として活用されています。

現在、整備が行われているのは、芝原町の丘陵地に屋外型の施設や駐車場を建設する工事です。計画のキャッチフレーズは「自然・歴史・文化・スポーツが共生する布引運動公園」。キャッチフレーズのとおり、もともとの自然を生かし、敷地内にある七ヶ八世紀の集落跡の遺跡などを保全活用したプランが特徴です。

お話をうかがった後、メンバーはUR都市機構西日本本社西日本公園事務所の道木柳太さんの案内で、建設中の施設を見学しました。



『ここに注目!』



太陽光と風力で発電するハイブリッド照明装置

スタンドのエントランスの屋根に、六キロワットの太陽光発電パネルが設置されています。ここで作られた電力は、井戸のモーターと夜間照明に利用されています。
また、高台で風を受けやすい地形であることから、園内に設置された街灯は、太陽光発電と風力発電の両方の機能を備えたハイブリッド照明が採用されています。

注3

太陽光も風力も

注1

9レーンの陸上競技場

今回の工事のメインとなる陸上競技場は、9レーンの全天候型、スタンドの定員は一八六〇人で、芝生席を合わせると五〇〇〇人の観客を収容することができます。日本陸連の三種公認競技場として、さまざまな競技会の誘致をめざしています。
スタンドの階には、更衣室や放送室、会議室などのほか、トレーニングルームも設けられています。
そのほかにも、サッカーや野球を行うための多目的グラウンド、八ホールのグラウンドゴルフコース、大型複合遊具やせせらぎのある芝生広場、展望台や散策路、駐車場などが整備されます。



ガラス張りのトレーニングルーム



9レーンのトラックとスタンドのある陸上競技場



スタンドエントランスの屋根に設置されたソーラーパネル

注2

井戸水と雨水

園内に設けられた二〇〇mの井戸から地下水をくみ上げ、天然芝や植栽の水まきにも利用するほか、芝生広場を流れるせせらぎにも井戸水が用いられます。この水は、飲料水としての基準も満たすため、災害時には飲み水としても使えるそうです。
また、スタンドエントランスの地下にある耐震タンクには、約五〇トンの雨水が貯められるようになっていて、平常時もトイレの洗浄水に利用されることになっています。



スタンドの1階に設けられた備蓄倉庫。災害時には水のいらぬマンホールトイレになる



スタンドのエントランス。地下に雨水を貯めるタンクが設置されている。

注5

防災拠点機能

スタンドの1階に設置された二五〇㎡の備蓄倉庫には、発電機や毛布、救助用資材や食料などが備蓄されます。施設内には、断水時でも使える防災トイレ(マンホールトイレ)が数カ所設置されています。
災害時には、救援物資の受入拠点として利用される予定で、競技場や多目的グラウンドをヘリポートにするほか、中日本高速道路と協定を結び、災害時には車で約一分の距離にある名神高速道路の黒丸PAから出入りできるようにしています。
また、グラウンドや駐車場などのスペースを仮設住宅用地として利用することも可能です。



大型複合遊具やせせらぎのある芝生広場(写真下・左)



公園内に設けられた遊歩道。敷地内に壺焼谷遺跡が保存されている。

注2

自然を残す、生かす

今回の整備計画の特徴の一つは、もともとあった里山の五〇％の緑を残すということです。たとえば、グラウンドゴルフコースは、もともとあったアカマツ林をできるだけ残すように、コース設計が行われています。
自然の傾斜に沿ってひな壇のように駐車場を設けるなど、山林のものごたえをできるだけ生かすことで、建設残土を抑えています。造成の際に出た土も施設内で活用したり、伐採した樹木はチップ化して、遊歩道や法面に用いられています。
また、絶滅危惧種のイシモチソウが生える雑木林は、当初テニスコートが造られる予定でしたが、手を入れずそのまま公園内に残されることになっています。



木材チップで覆われた遊歩道



アカマツの林を残したグラウンドゴルフコース(写真右)

普段はなかなか見ることができない、公共施設の建設現場を興味深く見学しました。防災拠点としての設備や機能はもちろんのことですが、環境保全や省エネなどにさまざまな配慮や工夫がなされていることがわかりました。広報委員のみなさんは、専門家の立場から「手間やコストをかけて行われる環境配慮型の工事の意義を市民に理解してもらったことが大切になる」といった意見が聞かれました。
この後、道路の舗装や植栽などが行われて、今年の秋には市民のみなさんにお披露目されることになっています。



元気(^▽^)いただきます!

どんなに便利な世の中になっても、守り伝えていかなければならない手仕事の技とものづくりの心があります。今回は文化財の保存修理などに不可欠な伝統的な建築技術を受け継ぎ、ものづくりのスペシャリストを目指す3人にお話をうかがって、元気をいただきました。

経験の中から、身に付けたほんものの技

河村 守左史さん [河村社寺工殿社]



坂本に代々続く檜皮葺土の家に生まれた河村さん。高校を卒業してそのまま、家の仕事を継ぎたくないと建築の専門学校へ進学したものの、20歳になってやはり家業を継ぐことを決意します。

教わるというより、仕事をしながら技術を身に付けていった修業時代。せっかくなので、めくってやり直しをしなければならないことが何度もありました。

その後、全国社寺屋根工事技術保存会の研修に参加して、1年かけてみっちり檜皮葺や柿葺の技術を習得した河村さん。4人1組で寝食を共にし、同年代の参加者と切磋琢磨したことが大いに刺激になったと振り返ります。

使う材料は自然のものだから、同じように拵えをしても微妙に違ってくるため、満遍なくうまく使いこなすには、経験や感性が必要になります。もちろんこの拵え仕事は適当だと、いくらきれいに葺こうとがんばってもうまくいきません。左手で抑えて、右手で竹くぎを打つのが仕事の基本ですが、経験を積むと抑えている左手で、どこが高い、どこが低いかわかるようになっていきます。

経験を積んで、理解し身に付けていくことが大切だと言う河村さん。「自分で気付くまでは、人に100回言われても頭には入らない。若い頃は父や先輩に言われてやり直しましたが、今は自分で納得がいかなければやり直せるようになりました」

取め方の難しい屋根をどう葺こうかと、現場でいくら考えても思案が浮かばないのに、朝起きた時にふっと思いつくこともあるという河村さんのことばは、マニュアルにできない何かを培われ蓄積されてきたことを物語っているようです。

「きれいに仕上げてもらってと言われると素直にうれしい。この仕事の喜びはやっぱり後の世に長く残せるということ。修復で古い屋根をめくってみると、昔の仕事ぶりがよくわかります。それだけに、何十年か先の修復の時に、『ええ仕事があるな〜』と思われるようにがんばりたい」と意気込みを語ります。

檜皮葺きは古来から受け継がれてきた日本固有の技法で、優美な曲線を描いた屋根を葺きあげるためには熟練の技が必要です。次の世代にこの技術を伝えていくのも、河村さんの役目ではないでしょうか。



日々試行錯誤を繰り返した修業時代

北村 久彦さん [有限会社津田左官工業所]



高校卒業後、お父さんが経営する左官店で見習いとして働き始めた北村さん。お父さんの片腕として仕事ができるようになった4年目に、文化財の土壁などの伝統的な左官工事の技術を学んでみないかと、津田弘道社長から声をかけられたことが転機となりました。

「主に一般住宅の外壁などの仕事をしていましたが、これは技術を身につける絶好のチャンスだと思いました」と、迷うことなく申し出を受け入れました。

初めは修業のつもりで、何年か経ったら実家に戻ろうと思っていたのですが、比叡山延暦寺や三井寺のほか、県内の文化財の復元工事を次々手がけるうちに、伝統的な日本建築の魅力、左官技術の奥深さに取り付かれたと言う北村さん。

壁や漆喰の材料も既製品が多くなっていますが、文化財の修復ではすべてオリジナルと同じ材料を使って、一から手作りしなければなりません。先輩の仕事ぶりを見て、仕上がったものを触って、日々試行錯誤しながら覚えていったと、修業時代を振り返ります。

同社に入社してから13年経って、現場を任せられ、人の上に立って仕事をできるようになっても、「これでよい」ということがないのが職人の仕事と北村さん。「文化財はまず同じものがないので、その都度その都度、勉強して工夫していくことが必要ですが、難しいものほどおもしろいと言うか、よしやってみようという意欲がわいてくる」と語ります。

印象に残っている仕事は、解体から携わって、昨年12月に終了した草津宿本陣の乾門の保存修理工事。壁小舞に荒土を塗る荒壁塗から、中塗、漆喰仕上げまでを入念に施工しました。「大津壁のような磨き壁の技術を身につけたい」とこれからの抱負を語ります。

「ものづくりの仕事を目指すうえで大切なことは」と尋ねると、「失敗したり叱られたりしても、『次はちゃんとできるようにがんばろう』とポジティブに考えられることが大切」という答えが返ってきました。



生き方が正直に現れる職人の仕事

川原 温さん [株式会社西澤工務店]



和歌山県の九度山町にある慈尊院で進められている多宝塔の保存修理工事現場を訪ねると、西澤工務店で修業を始めて2年目という川原さんが2階の足場の上で作業に没頭していました。

大学2年までずっと野球に熱中していた川原さんが、大学を辞めて、自分のやるべきことを探していた時に出会ったのが、指物や建具など職人の手仕事の世界を紹介する本でした。そこに紹介されていたのは、技術はもちろん、仕事に向き合う姿勢から生き方まで、ごまかしのきかないものづくりの世界でした。

東京の本郷に生まれ育った川原さんは、小さい時から社寺建築に興味を抱いていたこともあって、建築技術を身に付けたいと思うようになり、まず、地元で一般建築を手がけている工務店に就職した後、知り合いに紹介された西澤工務店で宮大工の修業を目指すことになりました。

川原さんが現在、取り組んでいるのは、解体されていく木材の一つ一つの記録をとる仕事です。寸法を実測するだけでなく、どのように釘が使われているか、墨書の後などがないかを調べて記録していきます。

文化財の修復工事は、まず時間をかけて一つ一つ解体することから始まります。ていねいに木組みははずし、木の状態を見ながら、記録をきちんと残し、使えるものは極力、再利用します。そのため、釘をはずすのも、木を傷つけないように細心の注意が必要です。

「毎日のように新鮮な感動や発見があります。昔の人の技術が肌で感じられる今の仕事がおもしろくてならない」と川原さん。とはいえ、パソコンを使った報告書の書き方、図面の引き方など、学ばなければならないこと、覚えなければいけないことがたくさんあります。「より高い目標を掲げて自分で選んだ道なので、きびしいのは覚悟のうえ」と言う川原さん。夜は規矩術の本を読んだり、休日は社寺の建物を見に行ったりして過ごします。

「1日でも早く仕事を覚えて一人前になりたい」と言う川原さん。いつか、たくさんの経験を糧に、誠実な生き方が現れるような正直なものづくりができるようになりたいと夢を語ってくれました。



元気いただきます!

V O I C E 読者の声

- ◆建設業界のことがよくわかって勉強になります。現在、予算削減などで大規模プロジェクトが停滞していますが、未来に必要な社会資本をきちんと残していかなければならないと思います。(宮脇達也さん)
- ◆父が農業土木の仕事に従事していましたので、橋梁やダム工事などの写真を見て、地図に残る仕事はすごいとつくづく思いを馳せました。(粟津智之さん)
- ◆挨拶や清掃を徹底して、地元から評価される仕事をという阪本建設のモットーに感心しました。(相馬 勉さん)
- ◆すべての住宅が省エネに配慮した設備を備えることができればと思います。(早瀬藤明さん)

- ◆私も建築関係の仕事で、滋賀県の公共事業を多くさせていただき、今は過ぎし日が懐かしく思い出されます。(伊藤 勝さん)
- ◆建設現場にはたくさんの仕事があるということ、写真を見ながら子どもに話しました。(丸岡尚子さん)
- ◆ぬくもりにあふれた豊郷小学校旧校舎や、長浜最古の町家である四居家の重厚さにふれてみたいですね。(木下紀三恵さん)
- ◆日野菜漬の起源を知り県人として何だかうれしくなりました。(瀬津洋子さん)
- ◆フォトコンテスト、毎年見っていますが、今年作品はいずれも抜群で感銘を受けました。来年も期待しています。(小多 茂さん)

パズル & クイズ 当選者

- | | |
|---------|---------|
| 丸山 茂子さん | 廣瀬 優大さん |
| 大原 晶代さん | 広部 正幸さん |
| 森 悠輔さん | 石倉 未散さん |
| 犬井 尊信さん | 杉本 和秀さん |
| 原 正雄さん | 宇都宮佐智さん |

前号の答え 長期優良住宅

応募方法

- P&Q及びアンケート(返信用添付ハガキ)の両方にお答えいただいた方の中から抽選により粗品を進呈します。ふるってご応募ください。
- 別のハガキにてご応募の方も住所、勤務先(学校名)、氏名及びP&Qの答え、アンケート、メッセージ等を書いて送付してください。
- 締め切り 平成22年6月20日必着
- あて先 〒520-0801 大津市におの浜一丁目1-18 (社)滋賀県建設業協会 広報委員会

けんせつ家族 藤原ユキオ



After Word 編集後記

私のマイブームはゴルフだ。人よりマイブーム到来が少々遅いようだ。遅くなった理由は、貴重な休みの日に早起きして、何が悲しくて男同士で遊ばないといけなのか?ゴルフは本当にスポーツ?と思っていたからだ。

自分で言うのもなんだが、よく言われる「左利き・テニス経験者・背が高い」という3大条件を私はすべて満たしている。この条件を満たしていれば、すぐに上達すると信じていたが、現実はかなり厳しい。ちなみにあの有名な高校生プロゴルファーは右利きで、テニス経験もないようだし、背も私の方が高い。3大条件は私の勝ちで、負けているのはゴルフの経験と若さの二つだけだ。

意味のない比較はこれぐらいにして、現在密かに特訓中である。目標を聞かれたら、「誰々さんをギャフンと言わせたい」とか「参りましたと言わせたい」などの野暮なことは口が裂けても言わない。表面上の目標は、広々としたフェアウェイを周りの景色を楽しんで、4人でとりとめない話をしながら歩けるような優雅なゴルフをすることだ。だって、紳士のスポーツだから…。



もう一つの定番商品「サンドウィッチ」

コッペパンの形をした看板

木之本地域にある1951年創業のつるやパン



創業当時、「甘くない惣菜パンができないか」ということで、マヨネーズで和えたキャベツの千切りをコッペパンにはさんで販売しましたが、水分が出て味が落ちることから、初代店主の奥様のアイデアで、自家製のタクアンを細かく刻んでマヨネーズで和えてはさんだ「サラダパン」が誕生しました。その頃は多くの家庭が、家族が一年間食べるタクアンを手づくりしていました。

現在は、自家製ではありませんが、無着色無添加のタクアンを使って、昔ながらの味を守っています。パッケージも創業当時のものと変わっていません。多岐の家庭が、家族が一年間食べるタクアンを手づくりしていました。現在は、自家製ではありませんが、無着色無添加のタクアンを使って、昔ながらの味を守っています。パッケージも創業当時のものと変わっていません。

長浜市木之本町にある一九五一年創業の「つるやパン」の看板商品「サラダパン」。マスコミなどで取り上げられて、一躍、全国に名前が知られるようになりました。



すっかりおなじみになった「サラダパン」



つるやパン
長浜市木之本町木之本1105番地
TEL.0749-82-3162
<http://tsuruyapan.cart.fc2.com/>

湖国の祭りあれこれ

「伊庭の坂下し祭」

5月3、4、5日 織峰三神社 (東近江市)



織(きぬがさ)山の山腹にある織峰三(さんぼう)さん神社から、麓の大鳥居まで、三基の神輿を氏子が引きずり下ろす神事。正式な名称は「産土五神社春季例祭」。五月三日に山頂まで神輿を引き上げる「御輿上(おこしあげ)祭」が行われ、翌四日に、若衆たちの勇壮な掛け声とともに約四時間かけて神輿が頂上から下ろされます。全長五〇メートルの坂道は断崖絶壁で、途中に数力所の難所があり、手に汗握るスリリングな場面が連続する迫力満点の神事です。無事、神輿が下ろされた後は、大浜神社のお旅所へ渡御し、五日の本祭へと引き継がれます。

祭の由来については、日吉大社山王祭の神輿の山上げ行事をこの地に移したのではないかと言われています。近江の奇祭の一つに数えられ、長い歴史と伝統がある祭りで、県の無形民俗文化財に選定されています。

問い合わせ●伊庭自治会事務所 TEL0748-42-0362

季刊夢けんせつ春号

◆
2010年(平成22年)4月10日
通巻第600号
発行 社団法人滋賀県建設業協会
〒520-0801 大津市におの浜一丁目1-18
TEL.077-522-3232(代)
FAX.077-522-7743
<http://www.yumeken.or.jp>
企画編集 広報委員会
協力・印刷 宮川印刷株式会社



社団法人 滋賀県建設業協会
www.yumeken.or.jp

